



にじのはし幼稚園 園だより

平成28年9月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 酒井 正美

げんきなこえがもどったよ さつまいものはっぱも
おおきくなっておでむかえ みんながたのしいようちえん



充実の2学期に

いよいよ9月となりました。2学期のスタートです。お子さんにとって有意義な夏休みだったでしょうか。出掛けた先での出来事、家庭での経験等、長い夏休みの間には様々なことがあったことと思います。

園では、子どもたちのたくさんの経験を丁寧に受け止めていきたいと思えます。同じような経験は、遊びのイメージにつながることでしょう。出来るようになったことは、教師や友達に認められることで、さらなる自信につながることでしょう。一人一人の夏休み中の成長を受け止め、1年で一番長い2学期を充実させるようつなげていきます。2学期もどうぞよろしく願いいたします。

さて教員も、充実の夏休みを過ごしてまいりました。気持ちを充填するとともに、見聞を広めることは教師の資質の向上にとって大事なことです。そして、何と言っても研修です。どの教員も、都や区で実施されるキャリアに応じた研修や学びたいテーマに沿った研修に参加をしてきました。

教育基本法第9条に「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」とあります。教員は、日頃より研修の機会を得て学んでいます。夏休み中は特に、研修を通して日頃の教育活動をじっくりと振り返り、新たな学びを得てきました。園内の環境整備も行い準備万端、元気な子どもたちが幼稚園に戻ってくるのを待っていました。

熊本を訪れて

8月に機会をいただき、熊本を訪れました。熊本では、4月の大地震で甚大な被害が発生し、続いて梅雨時には記録的な豪雨に見舞われました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

飛行機からは、屋根を覆うたくさんのブルーシートが見られ、市内のそこそこには、崩れたままにある家屋が見られました。熊本城の被害も想像以上でした。このような状況の中、開催が難しいのではと思われていた「全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会」が行われました。開催のみならず、盛會を納めた熊本の方々の意気込みと底力に感嘆しました。

熊本県知事が、「被害に遭われた方の痛みを最小化する」「単にあった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す」「復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる」という話をされていました。教育分野においても、「Build Back Better」(創造的な復興)を目指し、震災の経験を踏まえた子どもたちの「生きる力」を育む教育に取り組んでいきたい、ということでした。震災を通して「困難を乗り越えていく力」や「人と人が支え合い協力していくことの大切さ」を感じ、そのような人格の基礎を形成する幼児期の教育の重要性を、改めて認識したとの話もありました。

幼児教育の特性として、家庭の果たす役割が大きいことが挙げられます。子育ての環境が変化中、家庭教育を支え、地域とのつながりの中で子どもたちを育てていく公立幼稚園の教育の重要性と役割について、改めて深く考える夏となりました。

